

カトリック 仙台教区報

2011年3月6日 No.198

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

感謝と新たな出発を目指す「教区年！」

司教総代理 梅津 明生

皆さまもすでに教区報などによつてご承知のとおり、仙台教区の誕生75周年を記念し、7月3日(日)に行われる宮城県大会をスタートとして、一年間にわたって「仙台教区年！」が開催されます。

日本ではカトリックの洗礼を受けているのは、全人口の0.4%程度に過ぎませんが、神による全人類の救いのご計画の中では、貴重な存在であり、わたしたちに委ねられている使命は大きいものと感じています。

「仙台教区年！」にあたって、仙台教区の誕生前から今日まで、多くの司教・司祭や修道者、信徒を通して神がどのように導いて下さったか、すなわち、教区の歩みを知るとともに、私たちが信仰に導かれたことをも含めて、感謝のうちに見つめ直す機会にしたいと思います。次に、これを機会に仙台教区

現在の様子を、みんなが知ることも大切なことだと思います。そのためいろいろな企画を準備委



大船渡教会の鐘楼の十字架とイエス像 撮影：藤也

小教区があり、巡回教会は8ヶ所。そこではさまざまな教会活動が行われています。しかし、その他にカトリック教会が母体となっている大学や高等学校から幼稚園までの教育施設、社会福祉施設、病院などがあります。そこで働いておられる多くの方々には信徒ではありませんが、この社会の最前線でキリストの精神をもって働いています。

仙台教区を知り、互いの立場を理解して少しずつでも助け合うことが出来るならば、仙台教区はさらに豊かになることが出来るのではないのでしょうか。

無縁社会と言われるほど、日本の社会では人々が孤立する現状が見られ、人と人との関わりは難しくなってきました。教会の中も例外ではありません。司祭も信徒も高齢化している現状にあつても、日本の社会に福音をのべ伝える教会に成長したいと思えます。

過去を踏まえ、これからどのように歩んで行ったらいいものかを、祈りながら具体的な知恵を出し合い、新たな出発となる「仙台教区年！」になることを願っています。

生命の泉

▼1月14日のBSニュースでヨハネ・パウロ2世が福者に挙げられることになったというニュースが世界中を飛び交った。2005年4月2日に帰天されてわずか6年足らずのスピード列福である。通常死後数十年はかかるという手続がこんなに早く決定するのは異例である。とはいえ、やがて教皇になることを預言したピオ神父やマザーテレサも非常に早く列福されるケースが目立っている。違和感はない▼教皇は26年の在位中に1338人を福者に、482人を聖人にしたことでも歴代の教皇の中でも突出している▼福者でも聖人でも活躍した時代を共にした私たちは大きな励ましを受けている。それは時代に先駆けて何かをしたということではなく「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」信仰の行為そのものだからだ▼聖人からいたたく恵みの一つは、神さまは私たちをお心にかけて下さっているということである。神は沈黙しているのでも、み顔を隠しておられる訳でもない。まさに「地上の氏族はすべてあなたによつて祝福に入る」(創世記12・3)の具体的な出来事を目の当たりにした▼前教皇は世界的にとっても人気が高く早く聖人位に挙げられることが望まれていた。彼の人気の秘密に、長い教会の歴史の中で様々な過ちに引き合い、率直に認め謝罪し、そのためにはどこにでも飛んで行った。その潔さに人は共感する。ラテン語のことわざ「神の声は人々の声」というのがある。その対応の仕方に私たちの思いが重なる。教皇の列福は今私たちの教会の歩みは間違っていないという神さまの応答だ。(守)

「教区年！」に向けて①

教区年！準備委員会（13回目）

が2月19日（土）教区センター会

議室で開かれた。今回は特に、

教区年の一年を通して実施する

「スタン

プラリー

と「ローソ

クリレー」

について

企画・準備を担当。

は、東仙台教会が

が、聖霊に導かれて祈り、互い

の交わりを深めることをねらい

としている。そのために、全教

会に次のことをお願いしたい。

① 教会のキャッチフレーズの

なメッセージを込めたスタン

話し合われた。

◆スタンプラリー

の作成。

②スタンブ手帳（A5判・2頁

見開きで53教会と8巡回教会を

紹介）のための資料提供。

③教会訪問による巡礼参加。巡

礼先の人々と交流し、巡礼者が

記念として各自の手帳にスタン

プを押印する。

④祈りによる巡礼。どの教会で

も、主日のミサ中、共同祈願で

他の教会のために祈りをささげ

る。

このことにより、仙台教区

民が、教区年開催中、巡礼でき

る人も、できない人も神の民と

して霊的に一致することを目

指す。

なお、近日中にスタンブ手帳

作成のため、各教会に質問書

を送付し回答に基づき作成する。

スタンブ手帳と各教会のス

タンブ完成は、5月30日を目

標とし、6月中旬に各教会にス

タンブ手帳を教区事務所から

発送し、7月3日以降スタ

ンプラリーを開始する。

◆ローソクリレーは、開年

ミサの中で司教の祝別を受

けたローソク（復活のロー

ソク同等のサイズ）を、1

年間をかけて教区内の全教

会、修道院、カトリック関

係施設を巡回し、仙台教区

75年の歴史に思いをはせて

「感謝と希望をテーマにロ

ソクを灯してミサまたは祈

りの集いを行うというもの。

ローソクには、巡回した教

会等の名前を記したストラッ

プをかけていく。ローソクの

受け渡しには、可能な限り両

教会の信徒による祈りの集い

や懇談の時を設け、親睦をは

かるようにする。

沖縄のこと—お前は どう見るか—

司教 マルチノ平賀徹夫



「《オキナワ》は終戦と日本復帰を未だ実感していません！ 沖縄の司教も、司祭・助祭団も修道者も信徒も、当然のことながら基地反対です。このオキナワ問題の根源に目を向けず、『反対』、『平和、』だけを唱えて、オキナワに連帯しているとうそぶいている政府と日本国民の無関心と偏見と差別意識に対して、沖縄は単なる基地反対そのもの以上に苛立ち、抗議しています。」

これは、昨年9月に札幌で開かれた「日本カトリック正義と平和協議会全国集会」に際して、那覇教区の押川壽夫司教から正平協の会長・谷大二司教に宛てて送られた書簡の書き出しです。長い歴史を通して、例えば明治政府による琉球処分や大戦中の本土のための《捨て石》等、沖縄が被ってきた問題、そして戦後もずっと負担させられ続けている大変な現実について、我々一般日本人の思考や認識の度合いはどのようなものなのかと鋭く切り込めます。そして、「基地反対」・「平和」そして「沖縄との連帯」を本当に主張するならば、それぞれが住んでいるその場で声を上げ、行動を起こしてみよ、と訴えています。

去る2月14日（月）から開かれた臨時司教総会の会期中に、「沖縄の過去と現在の理解を深める」というタイトルでの司教勉強会の時間が持たれました。そのとき押川司教ご自身から上記の書簡に関してのコメントもあり、この書簡には本当に言いたかったことの何分の一かしか表しきれていない、とのことでした。沖縄は日本政府と日本国民の無関心に抗議し続けているのです。

実は、今年1月2日付カトリック新聞に載りましたが、昨年12月10日頃、司教たちの社会問題研修会に私も参加し、沖縄を訪問して各地を回ってきました。名護市辺野古の美しい海岸を訪れたときの印象が強烈に残っています。米軍普天間基地の移設先として日本政府が公約していた「国外、最低でも県外」が覆され、辺野古案が再浮上しました。その辺野古の海岸に人々はテントを張って静かに座り、基地建設のための海上調査を絶対に阻止するという強い意思を表していました。それは「国会で決定されてもいないのに現地に住民を無視して強力で進められようとしているこの現実をお前は どう見るか、何もしないのか」との私への抗議でもありました。

那覇教区と仙台教区との距離は約2000キロ。いや、距離は問題になりません。沖縄の人々は仙台教区の我々の無関心と差別意識に抗議しています。

司教日程

3月・4月

3 ① 八戸聖ウルスラ学院高校

3 ② 青森明の星高校

8 ③ 司祭評議会

11 ④ 郡山ザベリオ学園中学

12 ⑤ 部落差別人権委・春季人権信

15 ⑥ 教区財政問題評議会

18 ⑦ 仙台白百合女子大学

20 ⑧ カリタスの丘

21 ⑨ 宣教司牧評議会定例会

22 ⑩ 学校法人理事會

24 ⑪ ベトナム司教団懇談会

28 ⑫ 司祭団月例会・責任役員会

30 ⑬ 部落差別人権委・事務局会議

31 ⑭ 部落差別人権委・定例委員会

4 ⑮ 9 ⑯ いわき教会

12 ⑰ 司祭評議会

15 ⑱ 仙台正平協議会

20 ⑲ 聖香油ミサ

21 ⑳ 主の晩餐

22 ㉑ 主の受難

23 ㉒ 復活徹夜祭

24 ㉓ 復活の主日

28 ㉔ 29 校長・理事長・総長管区長

て記録を残すため、デジカメと

プリンターを用意し、ローソク

と一緒にリレーできるようにす

る。

福島県大会と青森県大会には

そのローソクを使用し途中経過

を写真などで展示する。閉年ミ

サでローソクリレーはゴールを

迎える。今後、巡回のコースを

研究会

「教区年！」に向けて②

教区年！の祈り・A・B・Cの4つの祈りが完成しました。二つ折りにして使用するカードを印刷し、近日中に皆様にお届けします。

教区年！の祈りA

父よ、仙台教区年にあたり祈ります。

仙台教区誕生のとき、その礎を固め、さらに豊かに成長するようにと命をかけられた多くの宣教師、先人たちに心から感謝します。今、わたしたちはその感謝の心を新たにし、信仰を受け継ぎ、伝えることを約束します。

ぎ、伝えることを約束します。

新しく出発するわが、自らの使命を

忠実に果たす毎日とすることが出来すように、弱いわたしたちを助けてください。

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

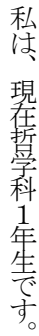
教区年！の祈りB

愛である神よ、

仙台教区誕生75年を祝うわたしたちを感謝と希望の心で一つ

ました。

1年を振り返って
仙台教区神学生 佐藤 彰洋
この文章を書いて
いるのは、2月20日
年間第7主日です。



私は、現在哲学科1年生です。

この日から神学院の春休みが始まりました。春休みは年度の終わり、そして春休み明けは年度の始まりです。このことを思ってみると私は1年間神学院で勉強・生活をしたんだというあたりまえですが、なんとでもない感情が起きました。年度の終わりに際してこの1年間を振り返ってみたいと思います。神学院はこんな1年間を過ごすのか！と関心を持って貰えれば幸いと存じます。

まず4月から7月までの前期は、初めて共同生活をするので不安はありましたが一緒に生活し意見を交わすことですぐに解消され

にしてください。そして、教区活動の中でわたしたち一人ひとりが、平賀司教の「仙台教区年」開

催宣言に心から応えるべく、それぞれに与えられている賜物を活か

かし、神の国の福音宣教に力を尽くすことが出来ますように。私たちの主イエス・キリストによつて アーメン

教区年！の祈りC

いつくしみ深い神よ、

75年を迎えたわたしたち仙台教区民一人ひとりが、日々、積極的に人と関わり、愛し、赦す

させていたきました。

夏休みが終わると、神学院に戻る前に哲学科1年生は、栃木県にあるマ・メゾン光星という知的障がいを持つておられる方の共同生活施設の手伝い(農作業等)と という心理学における講座を受け自己を見つめました。

それらが終わると、後期に入りま

す。0月から2月は、感想としては

割りと駆け足で過ぎてしまったかなという思いです。それも院の生活に慣

れたおかげだと思えます。月に神学院祭が、2月には教皇大使を院に

招いてミサにあずかりました。そして講師を招いて感謝をささげるクリスマスパーティーもしました。クリスマス

が近づくと冬休みになります。今年

のクリスマスは、24日は花巻教会、25日は四ツ家教会でミサになり、四ツ家教会に3日ほどお世話になりました。こどもも様々な教会の現

ことを学びながら、たくさん

良い種をまき、たくさん良い実を収穫することが出来ますように、いつもわたしたちを見守り、

力をお与えください。わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

教区年！の祈りD

父である神よ、

御子キリストの愛の計らいによつて、わたしたちに神の福音が伝えられました。その福音を聞いて信じ救われた人々は、遣わされて

体験した。

年が明けてからはもうテストに一直線です。2月頭にテストが終わり、春休みに入る前に8日間の霊操をしてきました。神学院の向かいにはイエズス会の黙想の家があり、そこで年度の霊的な総まとめとして沈黙のうち

に8日間、キリストとともに祈り、自分がどう1年間過ごしてきたか振り返りながら過ごしました。

この1年間は、忙しかったという気持ちと共に深い充実感を味わいました。それも、キリストが常に導いてく

ださっているということ、院内外で出会う方々の支えがあつてこそだと思

います。私たち神学生のために祈り、物心両面でささげて下さっている

方々に感謝し、来年もがんばっていると思

います。

そのわざはこんにちまで途絶えることなく続けられ、75年がたちました。感謝いたします。

これからも、復活された主キリストを宣べ伝える宣教共同体として、力強く歩み続けることが出来ますようにわたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

教区年！の祈りD

父である神よ、

御子キリストの愛の計らいによつて、わたしたち神の福音が伝えられました。その福音を聞いて信じ救われた人々は、遣わされて宣べ伝える者となり、そして、そのわざはこんにちまで途絶えることなく続けられ、75年がたちました。感謝いたします。これからも、復活された主キリストを宣べ伝える宣教共同体として、力強く歩み続けることが出来ますようにわたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

教区年！の祈りA

父よ、仙台教区年にあたり祈ります。

仙台教区誕生のとき、その礎を固め、さらに豊かに成長するようにと命をかけられた多くの宣教師、先人たちに心から感謝します。今、わたしたちはその感謝の心を新たにし、信仰を受け継ぎ、伝えることを約束します。

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン



教区年！の祈りC

いつくしみ深い神よ、

75年を迎えたわたしたち仙台教区民一人ひとりが、日々、積極的に人と関わり、愛し、赦すことを学びながら、たくさん良い種をまき、たくさん良い実を収穫することが出来ますように、いつもわたしたちを見守り、力をお与えください。わたしたちの主イエス・キリストによつて アーメン

「積極的な協力がもたらす成長とは」 カトリック仙台教区研修会

津軽地区

神への信頼から生まれる

積極的協力

11月14日(日)本町教会で開催された「教区研修会」には、津軽地区の本町教会、浪打教会、弘前教会、黒石教会から53名が参加した。平賀司教の基調講演、5グループに分かれての分かち合い、全体会という流れでおよそ3時間半の充実した研修であった。

参加者からは、「視野が広がった」、「得難い体験を味わった」、「もつと多くの人に参加して欲しかった」などの声が聞かれた。

分科会と全体会では、多くの意見が出されたが、それらを集約すると以下ようになった。

◆人間は人と交わるることによって成長する。

◆神への信頼から生まれる心の豊



かさゆとりが、積極的な協力が結びつく。

◆社会に対する愛の実践

は、忍耐と継続を要し、携わる者の視野を広げ、信徒と教会を成長させる。

◆基本は個人の信仰心を育てることにある。

信仰心を高めるためには、教会内、教区内の活動、宣教師としての自分のありよう、社会に対するキリスト者としての関わりの意味を考え、ぶれない意思を示すことが肝要である。

◆活動に参加することで、個々の人に心の解放が生まれ、チーム内にゆるす心、尽くす心が生まれる。頭から心へ、義務から解放へ、このような活動に自分は入り込んでいる。で行きたい。

(青森県連絡協議会長 久世満正)

福島県

3点の改善を加えて実施

1月16日(日)午後1時より、郡山教会を会場に開催され、52名が参加した。

福島県カトリック連絡協議会は、昨年度の反省を受けて、今年度は、①研修会のテーマなどの周知期間を長くする。

②例年の参加者より広い範囲の参加者を集める。

③グループ討議の司会者の事前研修をする。

この3点の改善を加えて実施し

たが、年末から降り続いた豪雪の影響などにより、参加者は昨年を若干上回るにとどまった。

研修会は、教区共通のテーマにより、司教講話によって始まった。

講話は、昨年度の研修会の後半の資料を用いて、積極的な協力の在り方、信徒の権利と義務など、具体的な教会や社会・家庭での働きについて詳しく話された。

その後、グループでの話し合いは、司会者の事前研修を一週間前の日曜日に行ったこともあって、スムーズに進められ、参加者の多くの幅広い話を聞くことが出来た。特に今回は、司教も司祭たちも、信者も同じ目線に立っての話し合いとなり、本音で話し合えたことが良かった。全大会の最後に司教は、「常に熱意を失わないこと」と強調された。これからの歩みの力強い励ましをいただき、参加者一同は、豪雪の中をそれぞれの教会のある町に帰って行った。

《参加者の感想》

◆福島松木町T氏「あの研修会で聞いたこと、話したことが私の心の中で進化(?)し続けています。そして次回につながっていくことを期待します。

◆二本松Y氏「同じ顔ぶれという印象だったが、中には新しい人が見えたので嬉しかった。日頃の分かち合いと変わらないものでしたが、分かち合いの場に「飢えて」いるかも知れません。様々な課題

は把握されていて、積極的にやるうとしていたのですが、その方法が分からない人が多いと思います。

◆郡山S氏「教会は日常の行動を通して神の愛を伝える場ですが、ある人は「行動を通して信仰は深まっていく」、またある人は「勉強だけでは信仰は深まらない」などの感想が聞かれた。

◆須賀川S氏「グループに外国出身の方が2名おられて、日本人信徒との比較をする機会を得ました。対照的なことは、「日本人の美德」が「信仰表現の邪魔」となっていて、共同体での積極的な行動がとれないようです。ここを越えることが必要と感じました。

◆いわきI氏「たとえ千回の失敗があっても千一回目の立ち上がる勇氣を持って行動する」信徒の集まりなら、(教会自体が)積極的な志向を持つ教会になれるでしょう。

◆会津若松H氏「今回のような研修会は回を重ねることが大切。本音の部分がまだ見えてこないように思います。祈りだけでは自己満足に過ぎません。教会が互いに切磋琢磨して有意義な場になることを願っています。「出る杭は育てる」という考え方が、信徒、聖職者、修道者の意識の片隅にでも存在すれば嬉しいと思います。

参加したある教会では、この研修会で話し合われたことを、自分の小教区の壮年会で、再度テーマとして話し合いをして、自分の小

教区の課題として、あるいは自己自身の課題として、まとめ上げたところもあり、教区研修会が良い学びの動機になっていることも嬉しいことであった。

(福島県連絡協議会長 佐藤 大)

宮城県

各地域の代表者が発表

2月5日(土)元寺小路教会で行われ約100名が出席した。司教講話に続いて県内各地区を代表して4名が教会の現状を報告した。写真。

◆仙塩地区(塩釜教会) 一人一役を目標に、5つの委員会を設け小教区の運営にあたっている。

◆県北地区(築館教会) 司祭が居住していない教会の管理に苦慮している。役割や係が長期間同じ人に固定している。

◆県南地区(亘理教会) 4教会で司祭1人。月2回は集会祭儀、年5回ぐらい合同典礼が行われている。

◆仙台中央地区(元寺小路教会) 社会的弱者に対して教会は何が出来るかを考える必要がある。子どもたちの信仰教育、受洗者などの再教育など人材育成に力を入れ、召命を増やす策が求められる。



ハンセン病を知ってー

ー眞の解放・被害からの回復を実現するために

1月8日(土)午後2時から、第5回仙台ロゴス講座が開催された。継続されているテーマは「いのち 生き方を探る」というもので、今回は、実際にハンセン病療養所にかかり、元患者の方々とかわっている御供真人さんと芳賀龍太郎さんが、3部に分けて体験を分かち合ってくださった。

1. ハンセン病の向こう側ーハンセン病の一番の問題は、日本で行われた隔離政策にある。結核も

ハンセン病問題を考える⑨

2月の雪の三連休、伊豆の天城山荘で行われたネットワークミーティング in 横浜に参加しました。これは各教区の有志が自発的に企画開催し、全国各地から学生・若手

社会人が自由に集い、出会い、信仰等を分かち合い、共に祈り、ミサを捧げ、交流する企画で、私もここで大勢の全国の仲間と出会いました。違う場所に住み、違う道を歩み、離れていても、キリストのもとで結ばれた絆でつながっています。20回目となる今回は150名が参加。そのミサの説教で梅村司教様は、ハンセン病

同じ感染症の病気であるが、治癒すれば、療養所を出ることができ。しかし、ハンセン病の場合、強制的に隔離され、治っても療養所を出ることができない。完治する治療薬が開発されても、療養所内では治療できない法律がある。このようなことは外国にも例がない。この「らい予防法」が廃止されたのが、1996年。

2008年、ハンセン病問題の解決促進に関する法律、基本法が制定された。元患者の方々、家族

の新聞連載や横浜教区内にある神山病院を紹介し、強制的に社会から排除された元患者さんの孤独を思い、キリストの教えを歩む私たちがどのように生きていくのか、と語りかけました。

2004年、日本カトリック司教協議会は「ハンセン病問題に関する検証会議からの質問状」に対して「明治時代以降、カトリック関係者がハンセン病患者のために献身的な働きをしてきたと同時に、ハンセン病に対する間違った見方により、『らい予防法』の廃止を遅らせ、患者への偏見と差別を温存助長させたこと、結果的に教会としてハン

セン病患者を隔離・絶滅するという国策に加担してしまったことを反省し、人権侵害と差別の根絶、ハンセン病問題の全面解決に向けて努力する」という内容の回答をしました。

の方々の人権が大切にされなければならぬ。若い時、社会復帰ができれば、現在のようないかならなかつただろうが、高齢化した今、社会復帰はできない状況である。そこで、療養所の将来構想を実現していく必要性がある。

2. 黒川温泉事件ー2003年、熊本県の国立ハンセン病療養所の人びとが、黒川温泉のホテルに宿泊しようとしたところ、予約時には受けたのであるが、ハンセン病の人であることがわかったとたん、直前に宿泊を拒否された事件である。このことが報道されると、ホテルが謝罪したが、誠意のないものであったところから、園が謝罪を受け入れなかった。しかし、今度は療養所に対してひどいバッシングが社会からきた。療養所に送られてきた手紙などを見ると、いかに、人間の心に差別意識があるか、またハンセン病への差別が根深いものであるかがわかる。

3. 私たちに何ができるかー3、4年前、平賀司教から声をかけていただき、人権委員会に加わったことをきっかけに、ハンセン病問題とかわるようになった。仙台教区内には、宮城県に東北新生園、青森県に松丘保養園がある。その療養所の方々にお話を聞きながら、記録を残したり、サポートをしていきたいと思っている。その他、ハンセン病市民学会に参加したりしながら、他宗教の方と交流したり、若い人と交流している。

参加者は、約25人いたが、その中には講師2人と共に活動している若い僧侶2人の姿もあり、なぜ、ハンセン病に関わり始めたのか、というお話をいただいた。

罪を受け入れなかった。しかし、今度は療養所に対してひどいバッシングが社会からきた。療養所に送られてきた手紙などを見ると、いかに、人間の心に差別意識があるか、またハンセン病への差別が根深いものであるかがわかる。

3. 私たちに何ができるかー3、4年前、平賀司教から声をかけていただき、人権委員会に加わったことをきっかけに、ハンセン病問題とかわるようになった。仙台教区内には、宮城県に東北新生園、青森県に松丘保養園がある。その療養所の方々にお話を聞きながら、記録を残したり、サポートをしていきたいと思っている。その他、ハンセン病市民学会に参加したりしながら、他宗教の方と交流したり、若い人と交流している。

参加者は、約25人いたが、その中には講師2人と共に活動している若い僧侶2人の姿もあり、なぜ、ハンセン病に関わり始めたのか、というお話をいただいた。

第37回 2011年 2・11 信教・思想・報道の自由を守る 宮城県集会

2月11日(金)、仙台市民会館で開催された集会にはおよそ300人が参加した。

この集会で「日米同盟・9条改憲と私たちの暮らし」と題して、フリージャーナリスト島本慈子(すこ)さんが講演(写真)した。島本さんは、「日本国民の圧倒



的多数は、幸いにしてまだ軍需産業の労働者ではないため、戦争を待つ必要はない。また、日本は、長いこと平和憲法下であり、若者が「殺せ!! KILL!!」という訓練を受けてこなかったこともあり、世界198国内、最も殺人事件の発生率が低い(WHO等の2004年統計)国である。

しかし、現在の格差社会は、戦前(1931年)と似ており、人の心理として職を求めぬあまり戦争を望む動きも生まれかねない。したがって、日米同盟、雇用破壊、9条改憲への動向に警戒しなければならぬ。

戦争が一旦起きれば、武力は過剰になる。多くの兵士が告白しているが、敵国に上陸すると、住民は皆敵に見えるという心理状態におちいり、過剰な攻撃に走ってしまうのだという。そして、幼い子どもまで殺して、心的外傷を負い帰還後も苦しむ兵士たちがいるという。被害者だけではなく、加害者にも戦争は悲劇なのである(要旨)と語った。

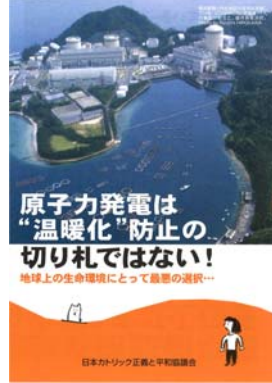
集会は、基本的人権の擁護、日本国憲法の擁護、核兵器廃絶などの「宣言」を採択し、会場から仙台駅前まで、デモ行進した。

(豊屋丁教会・杵淵千鶴子)

原子力発電は「温暖化」防止の切り札ではない

日本カトリック正義と平和協議会（会長・谷大二司教）は、昨年12月20日付けで「原子力発電は『温暖化』防止の切り札ではない」と題したリーフレットを製作した。これは、同協議会の地球環境を守る部会・リーフレット作成チームがまとめたもの。そのチームに参加した、カトリック正義と平和仙台協議会会員の芳賀ヒロコさんが、原子力発電への思いや、リーフレット作成について寄稿してくださいました。

原子力発電という重い課題に向き合っ、はや25年が経ちました。カトリック正義と平和仙台協議会へ参加と同時に核燃サイクル基地の建設予定地「六ヶ所村」を訪れたのが、スタートでした。当時の、相馬司教指導の下、「現場に立ち震えなさい」の呼びかけに答えようと、手探りの体験学習の始まりです。現地の核廃棄物の不安と苦悩に耳を傾けました。土地の買い上げによる離散、漁業権の放棄による廃港を目の当たりにしました。青森県の北の果て、むつ小川原湖に吹き付ける風「やませ」が痛く肌を突き刺したのを今も覚えています。過疎地の小さな声は何処にも届き



しません。身も凍るほど「震え」ました。相馬司教に尋ねました。震えたあとはどうする、と。つぎは「苦しみなさい」でした。原子力発電関連事業は国策として巨大なプロジェクトの中で進んでおります。核燃サイクル基地反対裁判の原告団の一員として、また、地元女川原子力発電所阻止裁判の支援・原子力行政を問い直す宗教者の会など、関わり続けた多くの市民の皆様に学びました。国政裁判は何故か全て敗訴になる事を。国策の誤りはハンセン病問題と繋がります。一人一人を大切にせず、多くの力ある者に加担する。この構造が同じ過ちを繰り返すことを危惧します。

文明・文化も偉大な発展をもたらし、私たちも恩恵にあずかってきました。果たして小さくされた者を、幸せにして来たのでしょうか？

私はこのリーフレット作成

に携わる機会に恵まれました。谷司教・松浦司教・京大の小出先生・多くのスタッフの暖かい指導を頂きながら8ヶ月の間練り上げた作品です。小さな紙面に思いをたくさん込めました。

キリストの福音は、ともすると隅に追いやられてしまいません。しかし、苦しむ人に心寄せて下さっているキリストに從うと確信した私にとって、原子力発電問題は福音宣教の原点でした。（北仙台教会 芳賀ヒロコ）

11年目に入った「炊き出し」活動

2001年10月13日に始まったホームレス生活者支援の「炊き出し」は、11年目に入りました。教会のみなさんに支えられて、続いています。感謝を申し上げます。

「炊き出し」は、毎月第2土曜日に行っています。

午前9時から、元寺小路教会で調理班と生活用品班にわかれて、それぞれに準備作業をします。調理班は、オニギリとブタ汁づくり、生活用品班は下着やタオルなどを入れたセットづくり、衣類の種別やサイズの仕分け作業、靴のサイズチェックなどをします。



原子力発電を考える

日本のエネルギー政策の柱は、原子力発電の推進にあり、「CO₂削減」の名目があるのを後押ししています。地震大国といわれる日本に、現在54基の原子力発電所が稼働しています。

いつまでも化石燃料に頼ってられない日本のエネルギー事情において、原子力は重要な位置づけを担っていることは否めません。

本当に安全な原子力発電が保障されるのか。高レベル核廃棄物を深層地下に埋め込むことで、地球の未来に責任を負えると言えるのか。疑問と不安が残ります。

現在の豊かな生活を支えるエネルギー問題については、未来の地球環境をも見据えて一人ひとりが自分の問題として捉え、議論を深めることが求められています。

地球を大事にする会 Sr.相良なおみ o.p.

での役割分担を確認し、お祈りをして五橋公園に向かいます。

12時から、来てくださったホームレス生活者70名程のみなさんに挨拶をし、セット配り、オニギリとバナナ配り、ブタ汁のおたのしみ会として、最初に配った紙コップの裏に書いてある番号が抽選で当たった人から、生活用品や衣類で欲しいものを選んでもらいます。



午後1時30分頃に終了し、教会に戻り、後始末と反省会をします。最後に、聖歌「キリスト

0941 仙台市青葉区菊田町1-33 コーポフレンド101
NPO法人「萌友」気付 渡辺 清
080-1827-8772
（カトリック正義と平和 仙台協議会 会長 渡辺 清）

各地から

福島県 いわき教会

クリスマスオルガンコンサート

いわき教会では昨年12月23日に、第3回「クリスマスオルガンコンサート」(無料)が開かれました。写真は、今回、日頃から協力関係にある日本聖公会小名浜教会の越山健蔵師にご紹介いただき、奏者に聖公会東北教区主教夫人、加藤晶子さん(宮城学院大学礼拝堂オルガニスト)をお招きしました。



カトリック教会から市民の皆さんへのクリスマスプレゼントと位置づけてのこのコンサートは、オルガンの演奏はもとより、まだキリスト教に触れたことのない方に、一度カトリック教会聖堂に入って頂きたいという願いがこめられています。

ます。

パイプオルガン奏者と

して日本各地で演奏会を開いていらつしやる加藤さんですが、思いを込めた初めてのカトリック教会聖堂での演奏は、軽やかなクリスマスメドレーで始まりました。続いて「主よ、人の望みの喜びよ」「トッカータとフーガ 二短調」他バツハ、ギルマン、パツフェルベルなどクリスマスにちなんだプログラムの続く一時間半、220名を超える聴衆を魅了しました。

年末の多忙を極めるこの時期、私たちには主のご降誕の喜びを待つ一日となり、ある人には慰めのひと時に、そして多くの人に感動をもたらしてくれたコンサートになりました。(いわき教会 佐々木三代子)

宮城県

古川東町カトリック保育園

改築記念感謝の集い

カトリック古川教会に隣接する社会福祉法人カトリック児童福祉会(理事長・梅津明生)古川東町カトリック保育園(園長・平野義子)は、入園者の増加と、園舎の老朽化のため昨年8月から改築工事が行われ2月2日に落成し、新園舎祝福式



を行ない、8日から新園舎写真での保育を開始した。

2月11日(金)、「改築記念感謝の集い」が行われ、工事関係者や、大崎市関係者、法人関係者、職員など約60名が参加した。来賓挨拶で平賀徹夫司教は工事に携わった方々に感謝を述べた後、「創世記では、人間は神の似姿として創られ、神の息吹を吹き込まれた人間の尊厳がそこにある。こうしたキリスト教的な人間観を大切にし、子ども

告知板

◆公開講演会 親から子へ、祖父母から孫へ
ふるさとの言葉で伝えたい「聖書の言葉」

日時 3月12日(土) 午後2時開始
場所 カトリック小名浜教会
講師 山浦玄嗣 (医師)
入場無料
主催・連絡先 カトリックいわき教会
Tel/Fax 0246-25-3290

◆第40回 沢神と聖書で祈る集い

テーマ: 聖書で祈る
指導: 沢田和夫神父(高円寺教会協力司祭)
日時: 5月3日(火)15:00~5日(木)12:00
会場: 仙台・ドミニコの家
参加費: 10,000円
主催: どんくま亭(TEL080-1827-8772)

◆春の後藤寿庵祭

= 豊作と農作業の安全を祈願 =
日時: 5月29日(日)午前10時~12時
会場: 奥州市水沢区福原 寿庵廟前
(雨天時は水沢教会)

問い合わせ: 水沢教会 TEL 0197-25-7707

*後藤寿庵が福原に着任してから400年を記念する式典・ミサ・講演会(講師:溝部脩司教)は、9月11日(日)に行われる予定です。(詳細は次号でお知らせします)

ちに伝えていってほしい」と職員たちを励ました。
また、平野園長は「設計・工事に携わって下さった方、工事中、仮園舎として快く場所を提供して下さい下さった家主の方に感謝したい。引越など大変なこともあったが、この3月に卒園する5歳児が、この新しい園舎から送り出せることが大きな喜びです」と感謝の言葉を述べた。
4歳児と5歳児が歌やダンス写真を披露するなど、和やかな雰囲気となった。
新園舎は、鉄骨2階建、延べ床面積657㎡、保育室6室、採光



や色彩、安全面など随所にアイデアを凝らした建物となっている。
新園舎完成により0歳児から5歳児まで88名の保育が可能となった。

投稿

「聖家族の犠牲」

四旬節を控えて受難について考えて見たいと思います。ルカ福音書は主キリストについて、誕生物語から書き出し、マリアはFIAT即ち「私は主のはためです。お言葉どおり、この身になりますように」とガブリエルに応えました。その時から一家の受難は始まっているような気がします。相手を知る事もなかったのに婚約者が身重になってしまったという事は大変な事です。ヨセフは夢で「ダビデの子孫ヨセフよ、妻マリアを迎え入れるのを恐れるな。その胎内に宿されているものは、聖霊によるものである。」といわれます。胎内の子供については、「イエズスと名付けなさい」と命じられました。子供の名前を付けるのは嬉しいことです。しかし、本人は普通の父親のように幼子を迎えたわけでは無かったと思います。密かに離縁しようと思っ

た。そして、マリアが男の子を産むまで、ヨセフは彼女を知ることとはなく、その子をイエズス

と名付けたことあります。40日後モーセの律法に定められたとおり、奉獻のため神殿に参詣しますが、その時神殿でシメオンに言われます。「シメオンはかれらを祝福して、母マリアに言った。『この子は、逆らひを受けるしるしとなり、あなた自身も心を剣で貫かれるでしょう。(以下略)』」と預言されます。少なくとも、イエズス様が「公的生活」に入られる迄は普通の家族として泣いたり笑ったり、怒ったりの生活があったのでしよう。しかし、神殿での事はマリア様の心の中にずう

畳敷きの大船渡教会

一関からJR大船渡線で一時間。気仙沼教会の聖ミカエル像の撮影をあたふたと済ませた私は、再び車中の人となりました。ここから先は海沿いを走るのかと思いきや、列車は山また山の間を右に左にカーブしながら走り続けるのでした。そして小一時間。右の車窓に海が見え隠れするとやっと大船渡駅に到着。ニコニコと出迎えて下さったのは大船渡教会の熊谷さんでした。かたい握手を交わし、初めての大船渡教会訪問はまず順調な幕開け。夕暮れも間近なので足早に二人で大船渡



改装されたばかりの聖堂を訪れて私にとり、久しぶりに原形をどめてい

教会へ向かいました。教会は丘の上にあつて、港と山並が入り組んだリアス式海岸らしい風情が素晴らしく、「フムフム、やはりこの教会も良いところに建てられている」と納得。聖堂に足を踏み入ると内部は「感激の畳敷き」でした。このところ何度か、タッチの差で板敷の床に



る教会との巡り合いで、はるばる山を越えてやってきた甲斐がありました。(伊藤龍也)

【伊藤龍也氏プロフィール】古い建物を撮影する使命感を持つ写真家。2007年関東甲信越地域での古い教会の写真を収めた「古教会への誘い」を出版。「家庭の友」(サンパウロ)の表紙写真を担当したこともある。歯科医師、1952年東京都生まれ。



新刊案内

「今、キリストを証しする」

聖書に学ぶ現代人の生き方
 編者 京都司教区聖書委員会／発行
 サンパウロ／定価 1500円＋税
 一九八六年から毎年開催されている、京都教区の聖書講座が、テーマごとにまとめられ一冊の本になっていますが、シリーズの八冊目として出版されたものが本書です。

「ペトロ岐部と一八七殉教者」が列福されたのは、二〇〇八年のことでした。この年の聖書講座は、本書のテーマで行われました。殉教者たちは、自分の血によつて信仰を証しましたが、現代に生きる私たちがする証しとはどんな証しなのか、ということをも12人の講師が語っています。

現代社会では、どのような証しが期待されているのでしょうか、教会共同体が行う証しをパウロはその手紙の中で、どのように表しているのでしょうか、神の救いを証しするものとしての秘跡の意味について、家庭、家族を通して証しするとはどういうことなのでしょう、信徒、女性、子ども、司祭・修道者、というそれぞれの立場での証し、障害、病、老いという立場での証し、死、希望について、これらを聖書を土台に据え、すべて証しという切り口で語られています。家庭を持つ信徒の方であれば、家庭や信徒という章は大いに参考になるでしょうし、老いを感じておられる方には、老いという章は示唆に富むものでしょう。私たち信徒は、洗礼を受けたときから、神の証し人となるように召されています。どんな証しをするのかは、一人ひとり異なっています。信者として、どんな証しをすればいいのかと、迷っておられる方のために、本書はよいヒントを与えてくれることでしょう。

- 〈前回クイズの答え〉
 仙台教区の面積は札幌教区に次いで2番目です。
- ①札幌教区 83457㎡
 - ②仙台教区 45569㎡
 - ③広島教区 28819㎡
 - ④新潟教区 28652㎡
- (国土地理院2010年調べ)